

専門ゼミB		演習	教授 竹内 成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	13130302	

1. テーマ

本ゼミでは心理指標と生理指標を用い、スポーツ・健康の生理心理学的評価をおこなう。

2. ゼミのねらい・概要

我々は日常行動の多くの場面で生理－心理的な制約や影響を受けている。例えば、過緊張場面では視野が狭まり、複雑かつ咄嗟な行動が困難になる。このような生理－心理的な関係性から最適パフォーマンスを発揮するための方法を探ることが可能である。更には競技スポーツだけでなく、健康スポーツに代表される健康行動の解釈や、行動傾向の改善においても生理心理学的な視点は有用である。本ゼミでは生理心理学的研究手法を用い、スポーツや健康に関する理解を深めることをねらいとする。また、問題提起－検査・実験－考察という一連の作業を通じて論理的思考と表現能力、客観的データの見方を養うものとする。

3. ゼミ計画

1. 心理分野の研究法実践7 (研究倫理を知る)	9. 生理心理学的検討1 (心理・生理的測定を行う)
2. 心理分野の研究法実践8 (研究計画を考える)	10. 生理心理学的検討2 (心理データの集計)
3. 心理分野の研究法実践9 (研究計画を作成する)	11. 生理心理学的検討3 (生理データの解析)
4. 心理分野の研究法実践10 (実験・調査する)	12. 生理心理学的検討4 (総合解析と解説)
5. 心理分野の研究法実践11 (データを集計する)	13. 卒業研究テーマの打合せ (学生半数)
6. 心理分野の研究法実践12 (データを解析する)	14. 卒業研究テーマの打合せ (残り学生半数)
7. 心理分野の研究法実践13 (結果を理解する)	15. 後期のまとめ
8. 心理分野の研究法実践14 (結果から考察する)	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

自身のテーマを早期に決定できるように、興味に関連した文献を収集・熟読し、ポイントを整理しておくこと。また自身研究に関係する周辺知識の理解や実験・調査手法、とデータ処理の習得等を含め準備学習時間として2時間程度を要する。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

生理データ取得・データ分析時に適宜、コメント・指導する。また、論文紹介やディスカッションにおいて各自に講評をフィードバックする。

6. ゼミにおける学修の到達目標

生理心理学的研究手法によるスポーツや健康に関する理解を深め、卒業研究に必要な論理的思考と表現能力、客観的なデータの見方を養うことを目標とする。なお、年間予定している主なテーマと到達目標は以下のとおりである。

- ・ 心理学分野の専門書、実験・調査論文などを用いて心理学とその検討方法の理解を深める。
- ・ 生理・心理学的検討において用いられる指標の紹介とデータの見方の基本を学習する。
- ・ 模擬データを実際に取得し、検査・実験方法とデータ処理を習得と解析手法の理解を深める。
- ・ 興味テーマに関する議論からテーマの絞り込みをおこなう。

各自、決定したテーマについて予備実験・検査を実施する。

7. 成績評価の方法・基準

発表内容 (30%)、発表資料 (30%)、授業態度・積極性 (40%) を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。しかし、心理学の基本ならびに周辺分野を広く網羅しており、事典・参考書として最適であることから、参考図書として以下の書籍を推奨する。

※鹿取 廣人・杉本 敏夫・鳥居 修晃（編） 心理学（第5版補訂版） 東京大学出版会（ISBN-13: 978-4130121170）

※山崎勝男（監修） スポーツ精神生理学 西村書店（ISBN-13: 978-4890134298）

9. 受講上の留意事項

スポーツ・健康に関する生理心理学的評価方法を学び、スポーツ・健康活動に関するテーマを学生自ら率先して見出すことを期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。